

流行ニュース：

<鳥インフルエンザ 2004年8月18日現在、ベトナムの状況>

先週ベトナムで、南部で2名、北部で1名の致死的な鳥インフルエンザウイルスのヒト感染例が確定診断された。2症例にH5N1型の感染が確認された。最近の症例は南部の25歳女性の例で8月6日に死亡した。以降新しい症例はない。

検体は、WHOの研究所(世界インフルエンザ監視ネットワーク)に送られ、公衆衛生学的な見地から、ウイルスの遺伝子解析等が行われる。

これらの症例に関与したウイルスが変異を起こしているかどうかが決まるであろう。H5N1型ウイルスが鳥本来のままかどうかを知ることは重要である。

ベトナム厚生省当局はホーチミンのパスツール研究所とハノイの国立衛生疫学研究所が鳥インフルエンザの検査において綿密な協力をする事を求めた。この協力がこれからの症例での検査結果の共有を促進すると予想される。

WHOスタッフは週末ベトナムへ移動する。現在の公衆衛生上の危機の評価と、かつヒトの症例検出のための監視能力強化の計画を機能させるために厚生省と密接に働くであろう。

今週の話題：

<オンコセルカ症(河川盲目症) 第13回オンコセルカ症アメリカ国家間会議の報告、Cartagena de Indias、コロンビア>

オンコセルカ症又は河川盲目症はフィラリア寄生虫 *Onchocerca volvulus* によって引き起こされ、アメリカ大陸の6ヶ国(ブラジル、コロンビア、エクアドル、グアテマラ、メキシコ、ベネズエラ)の風土病である。アメリカオンコセルカ症撲滅計画(OEPA)はオンコセルカ症の視覚障害を除去し、地域での寄生物の伝播を阻止することを目的とした地域の発案である。OEPA戦略は、6ヶ国の流行国が6ヶ月毎に安全で効果的な経口マイクロフィラリア殺虫薬アイバメクチン(Mectizan)(メルク社より寄贈されている)を投与して継続的な集団治療を行えるよう保健省を支援する事である。投与計画は、感染地区に居住する治療を受けるのが望ましい住民の少なくとも85%に達するよう目標を定めている。OEPAのパートナーは、感染国、汎米保健機関(PAHO)、カーター・センター、ライオンズクラブ国際財団、米国疾病管理予防センター(CDC)及びメルク社である。

第13回オンコセルカ症アメリカ国家間会議(IACO 2003)は、2003年11月18-20日、コロンビアのCartagena de Indiasで開催された。会議は、カーター・センター、ライオンズクラブ国際財団、PAHOおよびメルク社からの財政支援の下、コロンビア厚生省およびOEPAによって組織された。

この報告書では、IACO 2003で報告された2003年の流行国6ヶ国における治療の進展を述べ、会議以降にOEPAが受取った報告で補完している。

* 2003年の治療活動：

毎年、2回のアイバメクチン治療が行われる。第1回は1-6月、第2回は7-2月の間に提供される。各治療の投与範囲は、投与が望ましい全人口である「最終治療目標人数」(Ultimate Treatment Goal, UTG)によって割り出され、各期間の投与された治療者数として計算された。UTGは感染地域の90%で実施されている毎年の国勢調査によって決定された。可能でなかった集団では、適正な人口がプログラムによって割りだされた。毎年の治療範囲は、UTG(2)(UTGを2倍したもの)によって2003年に提供されたアイバメクチン治療の総数を割ることによって計算され、次に、割合として毎年の範囲を出すために100を掛けた。

毎年のアイバメクチン治療の総数は、第1回IACOが1991年に設立されて以来確実に増加した(図1)。2003年には、819,066人のアイバメクチン治療が、6ヶ国のプログラムによって提供され、UTG(2)目標の93%に達し、2002年(749,182)に行われた治療より9%の増加を記録した。治療活動は、半年毎の2回の治療で、1950年に目標としていたコミュニティーの90%以上で行われた。2年連続で地域の達成範囲は85%の目標を超えた。6ヶ国の感染国は2003年にその目標を達成した(表2)。ベネズエラは、90%(2002年の65%に対して)を達成することにより、はじめて85%の目標を超えた。

ブラジル：12,488人に治療を実施した。アイバメクチン治療を3年連続して85%を超えて提供した。

コロンビア：2,234人に治療を実施した。5年連続して85%のUTGの目標を超えた。

エクアドル：38,462人に治療を実施した。3年連続して85%以上の治療を達成した。

グアテマラ：308,254人に治療を実施した。2年連続して85%の目標を越えた。

メキシコ：283,393人に治療を実施した。5年連続して85%以上の目標を達成した。

ベネズエラ：174,145人に治療を実施した。UTG(2)の90%に提供した。2003年に初めて85%の目標を達成した。

* 編集ノート：

IACO 2003は、計画した全ての国における85%の最初の目標達成を祝った。特にベネズエラは、2000

年の41%、2001年の53%、2002年の65%に比較しての劇的な増加で90%に達した(表2)。ブラジルに隣接する南部の遠隔のコミュニティで目標を達成するためにベネズエラを支援する必要性は、重要な国家的かつ地域的な目的であると認識された。IACO会議は、参加国の治療レベルを確認するため、集団別達成範囲の調査が行なわれるように勧告した。国家プログラムを維持するための政治的かつ財政的な関与はOEPA目標達成の鍵である。OEPAはアメリカからオンコセルカ症を除去するキャンペーンの新しいパートナーとしてビル&メリンダ・ゲイツ財団を歓迎した。

表1：アメリカ大陸でのアイバメクチン治療、1989-2003年

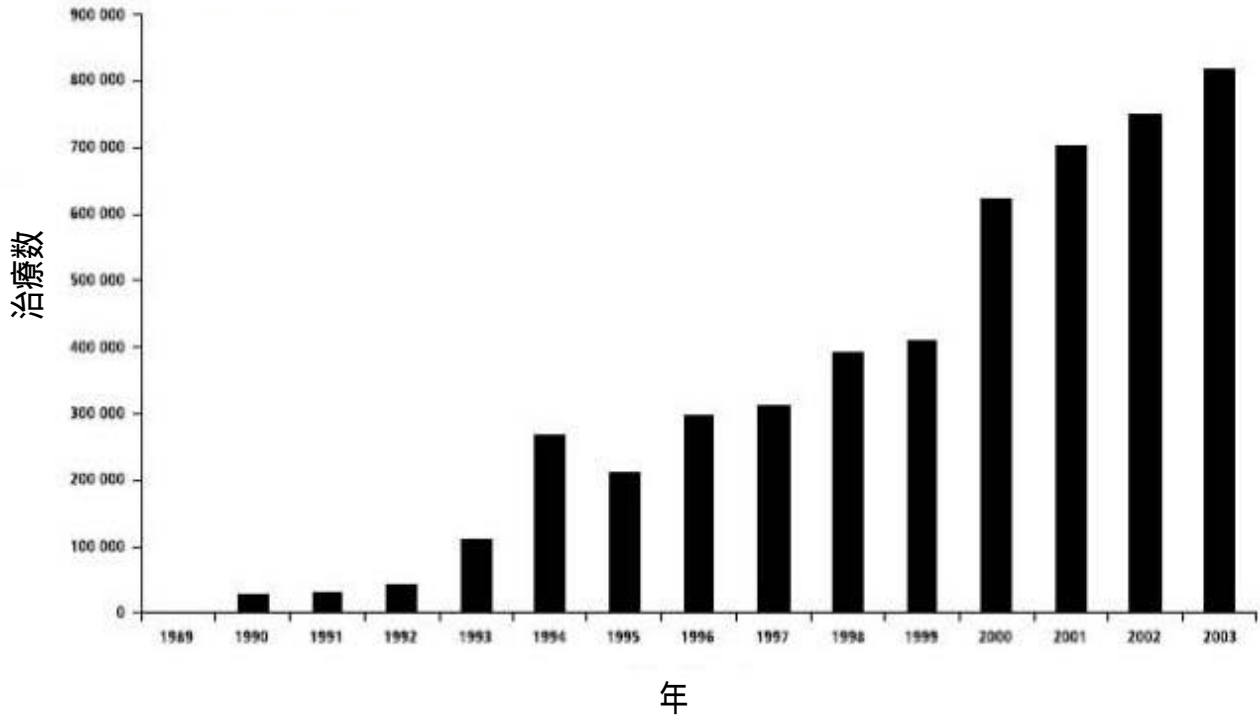
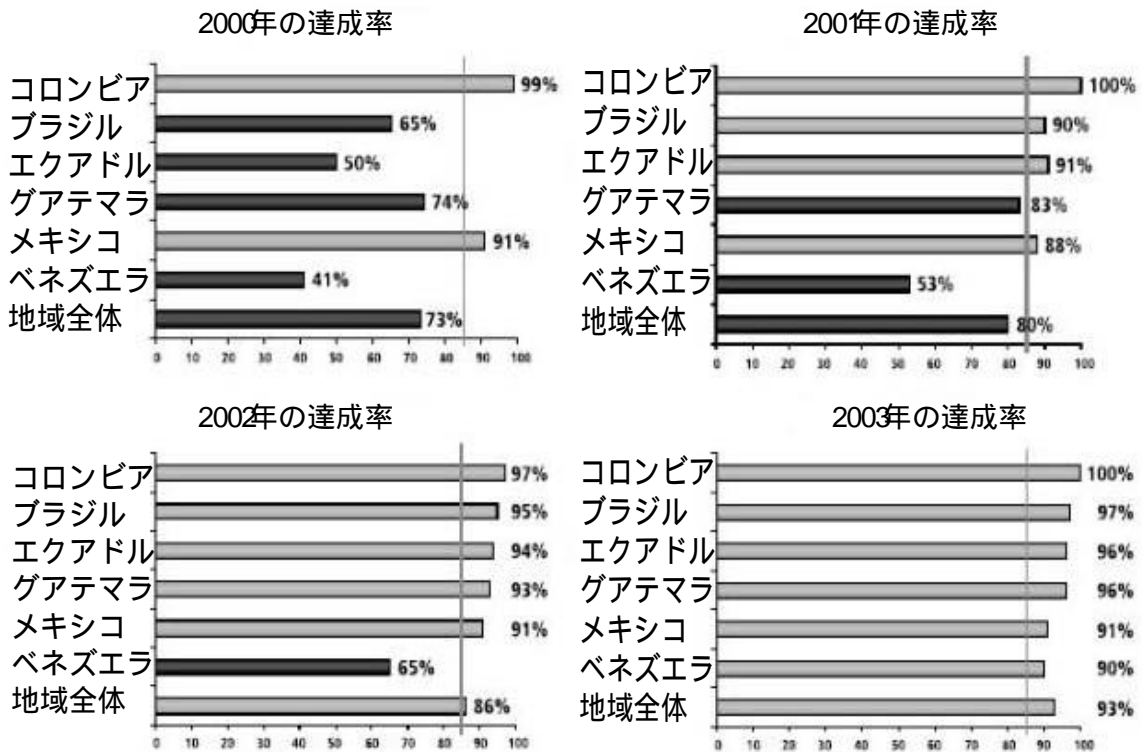


表2：治療率の進展、国別、アメリカ大陸、2000-2003年



(中野学、寮隆吉、片岡陳正)